西河　巧

一、「町の活性化」について
二、「教育環境の整備」について

「町の活性化」について

問 能勢町の活性化の推進力になるべき、物産センターの現状と今後の取り組みについて

答 売上高から見ると平成21年をピークに減少横ばい傾向にあります。この現状を打開に向けブランド野菜プロジェクトや、米粉製粉機の導入など支援につとめている。

問 加工場の建設により物産センターの、売れ残り野菜等の活用や、農産物の生産拡大につながると思うが、6次産業化を推進する事によって、新たな特産品作り、加工施設を作ることによって働く場も創造できると思うが。

答 6次産業化につながる加工工場については来年ということではっきりと言えないが、近いうちに3か所ほどは作っていきたいと考えている。

問 加工場についてだがただ加工品を生産するだけの施設ではなしに、交流人口を増やすためにも体験型加工場（たとえば味噌作り体験など。）をつくってはどうか。

答 ただ買って帰るのではなく自分で作ったものを持って帰る、非常に能勢を好きになってリピーターが増えるのではないか、体験型加工場も併せて考えていけばいいのではないか。

能勢町の活性化にとって加工場は、農的な資源を活用する側面においても、重要な事だと思う。

「教育環境の整備」について

問 新学校建設の進ちょく状況と通学路の整備について

答 現在基本設計のとりまとめを行い、実施設計に取りかかる。

今年度は造成工事の発注、来年度には建設工事を発注し、平成28年4月開校を目標に進めて行く。

新学校の通学路についても、通学路対策検討委員会を設置して、検討・協議を十分行い、整備に努めていく。

一般質問

大西　則宏

一、能勢町活性化に向けた産業育成と既存施設活用は！
二、新学校開設全般
三、町長就任以降の実績と今後の町政を担う姿勢はどうか？

問 能勢町活性化に向け育成していくべき産業としては、具体的に何を考えているか。

複数の産業を融合して基幹産業とする必要性を痛感するが、資金援助を含めた行政の支援体制はどうか。

活動中の既存施設として「能勢の郷」があるが設立以降の経緯と、所在地区の意見意向、環境保全を尊重し、無償譲渡等も含めた町民の利益につながる活用方法について問う。

答 六次産業化・農商工連携の具体化に向けた取り組みを進めるなど、地域産業の活性化、農村資源を最大限に生かした攻めの農業を展開していく必要があると考えている。

支援体制については商工会をはじめ関係機関と連携を密にし、地域のさまざまな資源を活用した新事業創出に資する積極的な情報収集・提供に努めてまいりたい。

「能勢の郷」については大阪府公式サイトによると、早期売却に向け手続を進めているとの記載があるが、能勢町で何か使わないかという話があれば、検討はしていきたい。野外活動センター跡とか府民牧場跡のような形での無償譲渡ということはなかなか難しいのではないかと思うが、大阪府のほうから一定の打診があれば地元とも話し、検討していけばいいのではないかと考える。

問 新学校の計画についての経過と変更点・考え方、児童・生徒への対応の進ちょく状況を問う。

また、天王小学校閉校時期についての児童対応地元意向についての認識はどうか。

答 新学校の設計業務については、効率的で教育効果を高めることを念頭において、内容を精査しまとめてきたものである。

天王小学校については平成25年に天王小学校ＰＴＡ会長より提出された平成26年度末で閉校したいとの要請文に基づき地元の皆さまの意見を尊重していこうということになったところである。

今後、受け入れ先の岐尼小学校と協議し、再度教育委員会にはかり、条例改正の手続を行う予定である。

問 町長に就任後、概ね一カ年が経過したが、今日までの実績、町政に臨むにあたり何を第一義としてきたか、どのように取り組むかを問う。

答 私が編成した平成25年度予算がスタートとし5カ月余りが経過したばかりで、これが私の実績だと声高に口にする時期ではないと考えている。皆さまから、これが山口の実績だと言っていただけるように、引き続き誠心誠意努力する。

また、住民との協働共創が念頭にある。住民の皆さまに対する説明責任を果たすよう、町政運営にあたる。